

社会厚生常任委員会行政視察報告書

平成25年11月22日

- | | | | |
|----------|---------------------|--|-----------------------|
| 1. 日 程 | 平成25年10月8日(火)～9日(水) | | |
| 2. 視察先等 | 福井県越前市 | 人口 84,487人 (4月1日現在) | |
| | | 面積 230.75 km ² | |
| | 富山県氷見市 | 人口 51,885人 (4月1日現在) | |
| | | 面積 230.49 km ² | |
| 3. 視察事項 | 越前市 | (1) 越前市地域福祉計画の概要について
(2) 公立私立の介護福祉施設の設置状況について | |
| | 氷見市 | (1) 第2次氷見市ヘルスプラン21について
(2) 国民健康保険会計の現状について | |
| 4. 視 察 者 | 委員会 | 田沢 弘一 委員長 | 関 龍雄 副委員長 |
| | | 亀山 重光 委員 | 森山 一理 委員 |
| | | 安田 憲喜 委員 | 高橋 禎雄 委員 |
| | 当局 | 和田 正利 | 福祉事務所兼在宅介護・看護支援センター次長 |
| | 随 行 | 美原 弘美 | 議会事務局主査 |
| | | | 計8名 |

◎越前市の概要

平成17年10月 武生市と今立町が合併して誕生。県のほぼ中央に位置し、関西・中京圏や福井市、敦賀市との交通の要衝。旧武生市は、「古志の国」として早くから栄え、大化の改新のころ越前国府が置かれ北陸の中心として発展。旧今立町は1500年の伝統を持つ越前和紙の産地であり、今も多くの紙すきの家が並ぶ。

産業は、電子部品、機械を中心に工業集積・出荷額は県下1位。越前打刃物、越前和紙、越前指物など伝統産業も受け継がれている。

○越前市地域福祉計画の概要について

- ・計画の期間 H21～25年度(現在、次の計画を策定中)
- ・計画の目的 「共に生き、共に支え合う社会づくり」を具体化するための指針を示すもの
市民などと行政が心をつなげて、福祉の輪を築いていくための、大切な理念と仕組みを示す計画
- ・計画の基本理念 ころふれあう 福祉のまちづくり
～助け合い、支え合う地域社会の形成～
自助、共助、公助の相互の連携

基本理念のもと、基本目標、施策の課題、施策推進の方向を定め、計画の実行を図る。

【特色】

自治振興会を条例により設置。自治振興会は、17の小学校単位で設置し、地域住民が相談して地域福祉の課題に取り組み、人材の発掘や育成の担い手となる役割を行う。

市は、25年度に1億2900万円の予算を計上し、振興会の人口や面積等により各振興会に分配し、地域福祉活動の促進を図っている。

また、法定の民生・児童委員のほかに、459名の福祉推進員を市長が委嘱して、地域福祉の増進に取り組んでいる。

○公立私立の介護福祉施設の設置状況について

	越前市	加茂市
第1号被保険者数	21,037人(25年3月)	8,878人(24年3月)
要支援1・2	771人(3.7%)	259人(2.9%)
要介護1～5	3,009人(14.3%)	1,294人(14.6%)
計	3,780人(18.0%)	1,553人(17.5%)
※比率は、1号被保険者に占める認定者の割合		
基準月額保険料(25.4)	5,190円	4,940円

	24年度実績	23年度実績
施設サービス月平均利用者	790人(20.9%)	381人(24.5%)
居宅サービス月平均利用者	2,767人(73.2%)	917人(57.1%)

※比率は、介護認定者に占める利用者の割合

○越前市にある介護福祉関係施設

目的	区分	施設数	定員	経営主体
特別養護老人ホーム	入所	5	350人	福5
介護老人保健施設	入所	3	245人	医3
介護療養型医療施設	入所	4	79人	医3 財1
養護老人ホーム	入所	2	100人	福2
軽費老人ホーム	入所	1	27人	福1
有料老人ホーム	入所	3	109人	医1 株1 NPO1
サービス付高齢者施設	入所	6	195人	医2 福2 株2
生活支援ハウス	入所	1	20人	福1
認知症対応通所施設	通所	8	87人	福4 医2 株1 生協1
小規模多機能型施設	通所等の併用	7	175人	医2 福2 株2 生協1
認知症共同生活施設	入所	5	63人	医3 福1 株1
計		45	1,450人	福18 医16 株7 生協2 財団1 NPO1

【特色】

施設は、かなり充足してきたので、在宅サービスに力を入れている。当面、24～26年度に毎年1箇所ずつ通所・宿泊が可能な小規模多機能型施設を民間が設置予定。なお介護保険事業計画の策定にあたり、市内業者または、市内に営業所のある業者から参入の意向を把握している。

【所感】

地域福祉計画を具体化させるために、小学校単位に自治振興会を設置し、市からの補助金と地区の財源で自主的な活動をやっていることが注目された。公益性のある事業に限るとしても住民の合意で実施されることは、市民参加の一つのケースとして福祉の増進が期待できるのではないかと。

介護福祉施設については、多様な事業者が参入しており、地域の実情により、計画的に整備されているものと判断したい。施設の実情については、サービスの充足状況が説明だけでは明らかでないが、利用者や家族の声をどのように反映できているのかが、課題であると考えている。

◎氷見市の概要

長い海岸線から立山連峰が望め、自然に恵まれ日本海側有数の氷見漁港に、多種の魚が水揚げされる「魚都」。さらに、大境洞窟住居跡、万葉歌人・大伴家持ゆかりの史跡など歴史遺産に恵まれている。そのため、自然、歴史、文化など魅力ある地域資源を活用して、農山漁村と都市との共生をめざしている。

○第2次氷見市ヘルスプラン21の概要

氷見市は、平成14年度～23年度まで、「氷見市ヘルスプラン21」を策定し、市民の健康対策を推進。そこで、22年度に行った市民アンケート等で明らかになった現状と課題を踏まえ、平成24年度～33年度までの、「第2次氷見市ヘルスプラン21」を新たに策定し、市民、地域、行政が協働で目標の実現に向かって進んでいる。

そこでは、「だれもがいきいきと元気に暮らすまち氷見」をめざし、基本目標として、

- ・健康寿命の延伸
- ・働き盛りの健康増進と早世の予防
- ・次代を担う子どもの健全育成

を設定し、健康づくりを「子ども」と「大人」の世代で6つの分野に分け、実行目標を掲げた。

- 6つの分野 ○栄養・食生活 ○身体活動・運動 ○休養・こころの健康
○たばこ・アルコール ○歯の健康 ○健康管理

【特色】

健康づくりに関する各種のデータや市民アンケートなどから、現状を認識し、課題を整理する中で、項目ごとに実行目標を立てながら、可能なものは目標指標を定め後年に目標の達成度を比較する。

さらに、それぞれの項目で、市民、地域、市の取り組みを記載した冊子を全戸に配布したり、食生活推進員の委嘱などにより、市民の健康への理解が進むための啓発活動を行っている。

○国民健康保険特別会計の現状について

	氷見市（24年度決算）	加茂市（23年度決算）
歳入	5,412,552千円	3,061,779千円
歳出	5,182,983	3,173,614
差引	229,569	△111,835
歳出のうち保険給付費	3,499,738	2,075,660
(同上の歳出に占める%)	67.5%	65.4%
1世帯あたり保険税	135,120円	131,975円
資格証発行件数	61件	発行しない
課税方式	3方式(資産割H19から廃止)	4方式(資産割あり)

【特色】

氷見市と加茂市は、保険給付費の歳出に占める割合及び1世帯あたりの保険税は、ほぼ同水準であるが、繰越金や資格証の発行については、対応が異なっている。

【所感】

ヘルスプラン21は、健康づくりにつながる要因を体系化、数値目標化することで市民に理解されやすいのではないかと。あとは、市民、地域、行政がめざす方向を一致させ、いかに健康づくりの成果を得られるかが、課題だと考える。

国保会計については、共通点も見受けられるが、資格証については、加茂市のように発行しないことが望まれることと、氷見市は、繰越金はもとより、基金の保有額が約6億9千万円台で毎年推移してきている。これは、政策判断の問題とは思いますが、個人的には、保険加入者の負担軽減を優先させて国保会計の運営にあたるべきと考える。